

「夏祭り」前に発行の意気込みでいたのですが、ごらんのように九月に入ってしまいました。いいわけはしませんし、この次は必ず一冊というようなエンゼツもしません。

この夏は、益ヶ崎の関係した記事がずいぶん新聞にあらわれました。ちょっと拾ってみます。

六・二四 柳井建設の飯場火事、十二人焼死
七・一五 山光組の保険金詐欺、一億二千万円
七・三〇 三角公園のノミ屋問題（読売だけ）
八・一〇 夏祭りへ先制嫌がらせ「過激派手入れ」
八・二三 職安の職員になぐられた労働者
同日 同日 センターで求人の車が焼けた
同日 全国出稼組合連合会長のセンター視察、
インタビュー（朝日だけ）

柳井建設の火事で死んだ十二人の人々には、心から
のおくやみをささげます。そして、この号にある関連
記事について読者の感想を寄せて下さるようおねがい
します。

死んだ人々の「身元」問題が、一種のさわぎのよう
に新聞をにぎわしました。この号の関連記事はそのこ
とを別の角度から見ているわけですが、三角公園のノ
ミ屋の記事や、出稼連合会長の発言など読んでも感じ
られるのは、法律万能主義といいか、なんでもお役所
にまかせようとしている態度です。現実は、そこでは
見えても見えないものにされているようです。

もちろん、現実は——ということで問題の核心をそ
らしてしまってもいけませんが、法律だけふりまわし
ても、ことの結果は同じではないでしょうか。

いすれどの点を結論で考えてみようと思います。
たとえばの話、三角公園のノミ屋の記事を書いた読
売の記者さんや、その同僚などは、賭けマージャンな
んか一切やってないでしようし、ビル街の喫茶店なん
か根城の野球バクチなんか聞いたこともないのでしょ
う。

大阪市西成区舟之茶屋三一六一一五

渡世舍行

料金受
取人払

西成局承認

48

差出有効期間
昭和52年10月
31日まで

切手は
いりません

なまえ

いるところ、またはドヤ名

どんな仕事にいってますか（土工雑役・工場雑役・土方・トビ・大工・その他の職人・職人手元・その他）——（契約・現金）
白手帳を（持っている・持っていない・持ってたけど今はない）

(労務者渡世)販売所

かとう ションベンガート東へ抜けてすぐ右側 新聞雑誌の店

中 銀座通り・安い屋ならび 新聞雑誌の店

千石書店 パインコ・ニュー大阪 東へ 新聞雑誌の店

大阪労連 中文書 舞日ビル7階にある事務局

長瀬書店 東京・山谷 パレスのウラの方 古本と雑誌の店

御握り屋 三島公園西・ハ里族館通り

パンナンバー

13号 特集読者之声

14号 特集あかま

20号 特集病氣

21号 特集仲仕

合本 労務者渡世

オ11号～オ20号 (1975.11月～
1977.3月)

10部作製の内5部を
おわけします。

架本は 木の園屋書店印刷センター

1部 4,500円(郵送費含)

なお、1号から11号までの合本は
品切れです。一人一冊限

第二回労務者渡世賞募集要項

オ一回の渡世賞は新聞でさわかれたせいか、一般的の、文学賞、と間違えて応募してきた人が多く、逆に、金セ山谷の人間の応募が少なかつた。今回は、前回みたいにハテな宣伝はないので、気負わせずに応募して下さい。

労務者生活を描いたものである事が唯一の条件といえば条件であるのが、この賞の特長であり、文章のうまさを技術は二の次にして選考しています。

前回は、「感駄」の詠ばかりだつたけど、「土方セ伸仕」の仲間たちの話もぜひ出て来てほしいと思ひます。

(1) 種類 小説／生活記録／詩／短歌／俳句／川柳／漫画。

(2) 長さ 小説／生活記録／四百字詔原稿用紙三〇枚まで。
詩は一〇行まで。

(3) 宛先 大阪市西成区萩之茶屋三一六一三四
御櫻り屋 気付 労務者渡世
郵便でも直接もうち込みでもかまいません。

(5) 奨 小説及び生活記録 一万円
詩 一千円

短歌・俳句一点 二千円

参加者全員に特製手拭を贈呈

(6) 選考編集委員会
1月発表 十二月発行「渡世」誌上

